

# 序章 はじめに

## 序-1 岐阜市都市計画マスタープランについて

### 1) 都市計画マスタープランとは

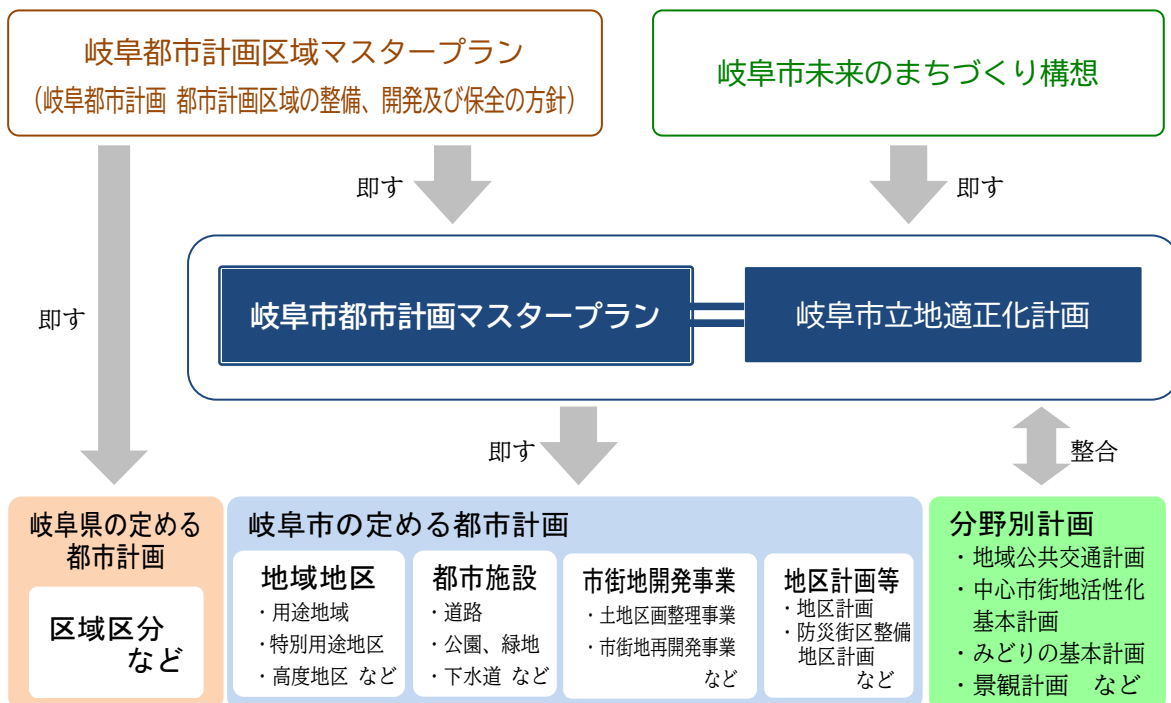
都市計画マスタープランとは、都市計画法第18条の2に定める「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、都市の長期的な都市づくりの方針を総合的・体系的に示すものです。

### 2) 計画の位置づけ

「岐阜市都市計画マスタープラン（以下、「本計画」といいます。）」は、岐阜市（以下、「本市」といいます。）における都市づくりの総合的な方針を示した「岐阜市未来のまちづくり構想」及び岐阜県が定める「岐阜都市計画区域マスタープラン」を上位計画とし、「岐阜市地域公共交通計画」、「岐阜市中心市街地活性化基本計画」、「岐阜市みどりの基本計画」、「岐阜市景観計画」などの諸計画と関連した計画となっています。

都市計画法の規定により、本市における今後の都市計画の決定や変更は、本計画に即して実施することになります。

【岐阜市都市計画マスタープランの位置づけ】

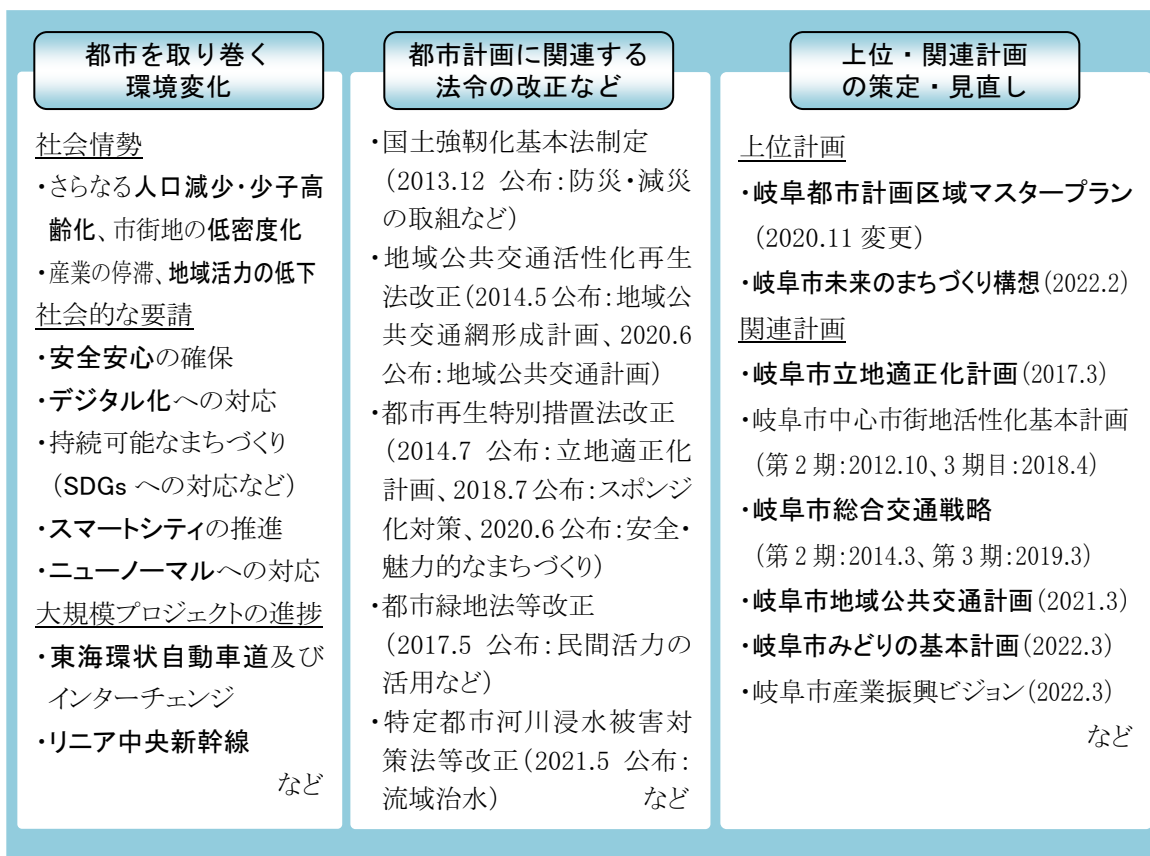


### 3) 岐阜市都市計画マスタープランの見直しの背景

本市では、岐阜市都市計画マスタープランの全体構想を 2008 年 12 月に、地域別構想を 2010 年 5 月に策定（以下、これらをまとめて「前計画」といいます。）し、都市づくりを進めてきました。

前計画の策定から 10 年以上が経過するなかで、都市を取り巻く環境が変化し、都市計画に関連する法令の改正や、上位・関連計画の策定・見直しなどが行われました。こうした変化などに対応した都市づくりを進めるために、「岐阜市都市計画マスタープラン」を見直すことが必要となりました。

岐阜市都市計画マスタープラン [前計画]  
 (全体構想:2008 年 12 月策定、地域別構想:2010 年 5 月策定)



岐阜市都市計画マスタープランの見直し

## ● SDGs

SDGs とは持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のことで、2015年9月に国連サミットにおいて採択された、2030年までに達成を目指す世界共通の目標です。貧困、飢餓、気候変動や平和など幅広い分野にわたる17の目標(Goals)が定められています。

### 【特徴】

- ・「誰一人取り残さない社会」を目指しています。
- ・開発途上国のみならず先進国も含め関係者の役割を重視しています。
- ・経済、社会、環境をめぐる課題に統合的に取り組むこととしています。



資料：本市 HP「SDGs の推進」を基に作成

## ● スマートシティ

スマートシティとは、ICT などの新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営など)の高度化により都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域のことです。(資料：内閣府ホームページ)

本市では、“「健幸都市ぎふ」出かけて健康になるまち”の実現に向け、スマートシティぎふ推進プロジェクトの実施を通じて、ICT や IoT などの新技術を活用し、快適で連続的な歩きやすい空間の整備などによる歩きたくなる都市空間の形成や、MaaS の導入などによる気軽に外出できる移動手段の確保などに取り組むこととしています。

### 4) 計画の対象区域

本計画の対象区域は、本市の行政区域全域とします。

### 5) 計画期間

本計画は、2022年度から2040年度までを計画期間とします。ただし、社会情勢の大きな変化などが生じた場合には、必要に応じて見直しを検討します。

## 序－2 都市の現状と課題

### 1) 地勢と都市計画の沿革

本市は岐阜県の県都であり、県の南西部に位置しています。面積は約 20,360ha で、東は関市・各務原市、南は羽島市・笠松町・岐南町、西は本巣市・瑞穂市・大垣市・北方町、北は山県市に隣接しています。地勢的には、木曾川、長良川及び揖斐川の3大河川の恩恵を受ける肥沃な濃尾平野の北部に位置し、市南部は平坦地形、市北部は丘陵地形となっています。土地利用の内訳は、2019年現在、森林・農用地が約49%、宅地が約27%となっています（資料：令和2年版岐阜市統計書）。

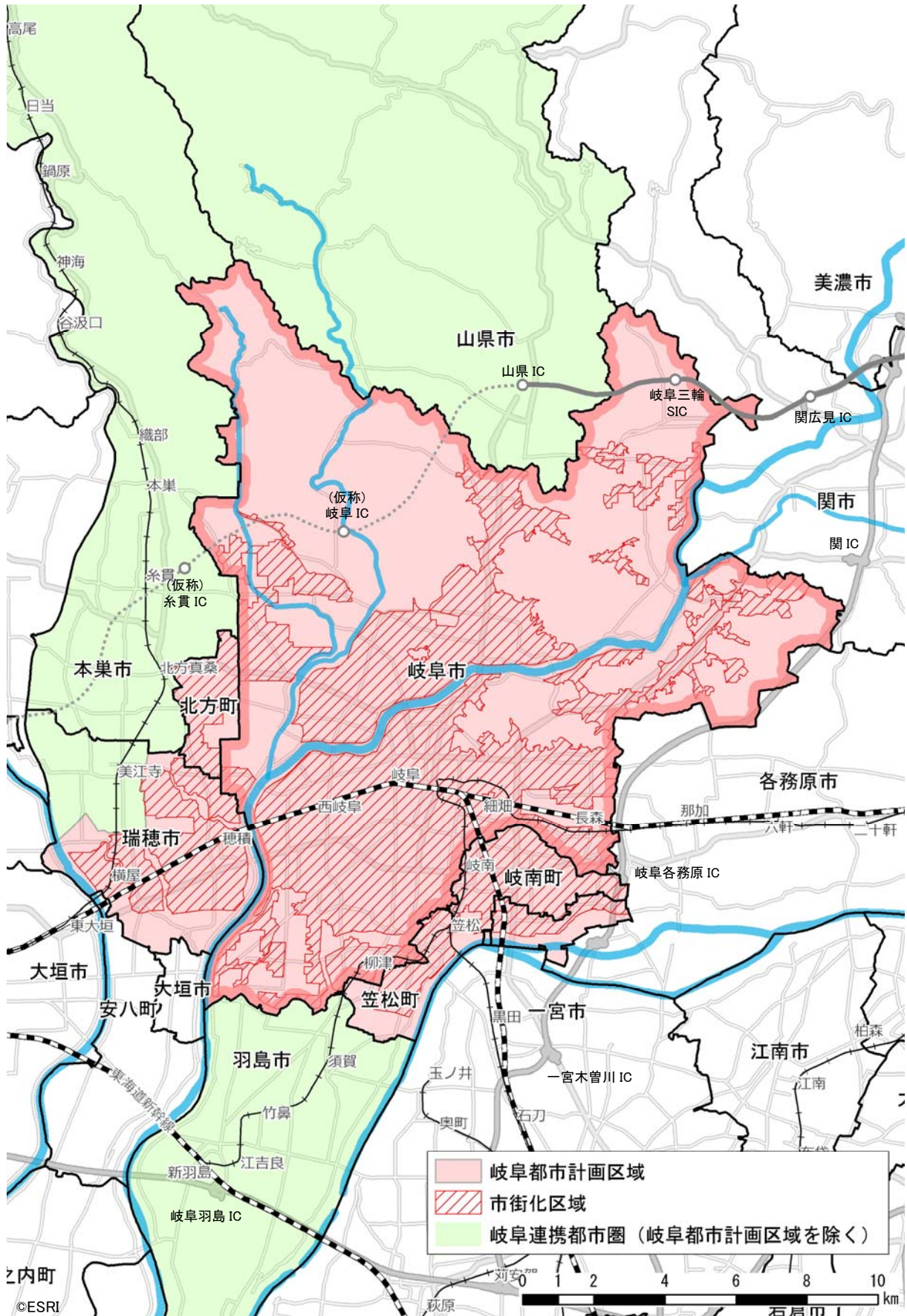
本市の都市計画は、旧都市計画法の適用を受け1924年（大正13年）に都市計画区域を定めたのが始まりです。その後、新都市計画法に基づき、1971年（昭和46年）に本市及び周辺1市8町（合併により2008年（平成20年）4月現在で4市3町）で構成する岐阜都市計画区域を定め、市街化区域と市街化調整区域との区分、用途地域、都市計画道路、都市計画公園などについて随時、決定や見直しを行ってきました。

2010年（平成22年）8月には、旧糸貫町（現在の本巣市）が岐阜都市計画区域から外れ、本市と瑞穂市の一部、北方町、岐南町、笠松町の2市3町で構成する現在の岐阜都市計画区域となりました。2021年現在、市全域が都市計画区域に含まれ、その約39%にあたる8,027haが市街化区域となっています。

また、本市は2017年（平成29年）6月に「連携中枢都市宣言」をし、2018年（平成30年）3月に「岐阜連携都市圏ビジョン」を策定（2021年（令和3年）10月第4回改定）しています。これに基づき、岐阜都市計画区域の構成市町に羽島市、本巣市、山県市を加えた5市3町からなる岐阜連携都市圏において、様々な分野で連携を図ることにより、将来世代に安定した活力ある社会を残せる圏域を目指しています。



## 【本市の位置と区域】



序章

はじめに

第1章

都市づくりの  
理念と目標

第2章

将来都市構造

第3章

都市づくりの  
基本方針

第4章

地域別構想

第5章

今後の都市づくり・  
まちづくりに向けて

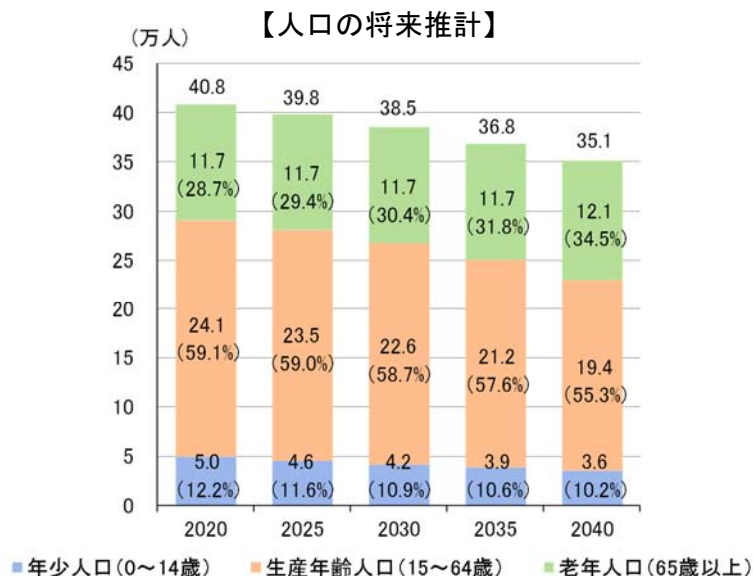
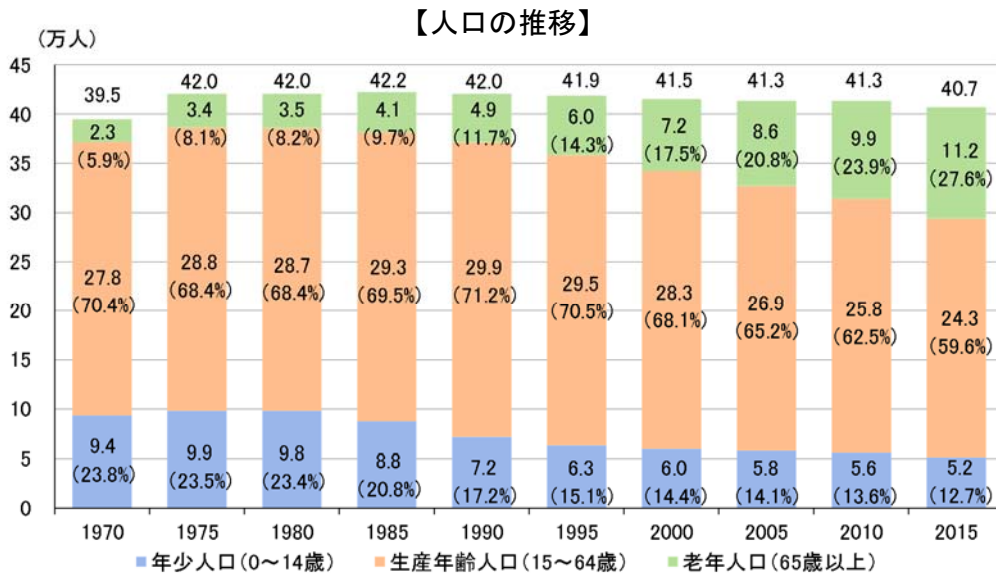
## 2) 岐阜市の現状と問題点

統計データなどをもとに本市の現状を把握し、都市づくりの問題点を整理します。

### ① 人口密度の低下と公共施設などの維持の困難化

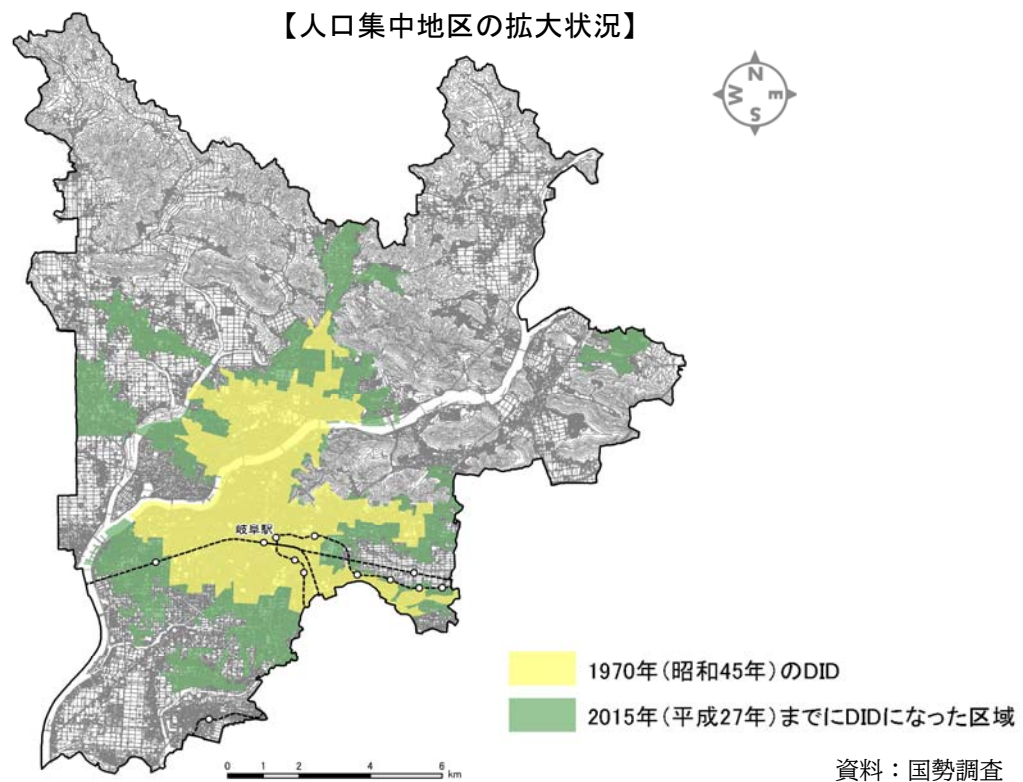
#### (i) 人口減少と少子化・高齢化の進展

- ・本市の総人口は1985年（昭和60年）の約42.2万人をピークに減少し、2015年（平成27年）には約40.7万人となっています。今後も減少傾向は継続し、2040年（令和22年）の総人口は約35.1万人になると予測されます。
- ・2015年（平成27年）の総人口に占める年少人口（0～14歳）の割合は12.7%、老年人口（65歳以上）の割合は27.6%で少子化・高齢化が進んでいます。今後も老年人口は増加する一方で、生産年齢人口（15～64歳）及び年少人口は減少し、少子化・高齢化の傾向はさらに進むことが予測されます。

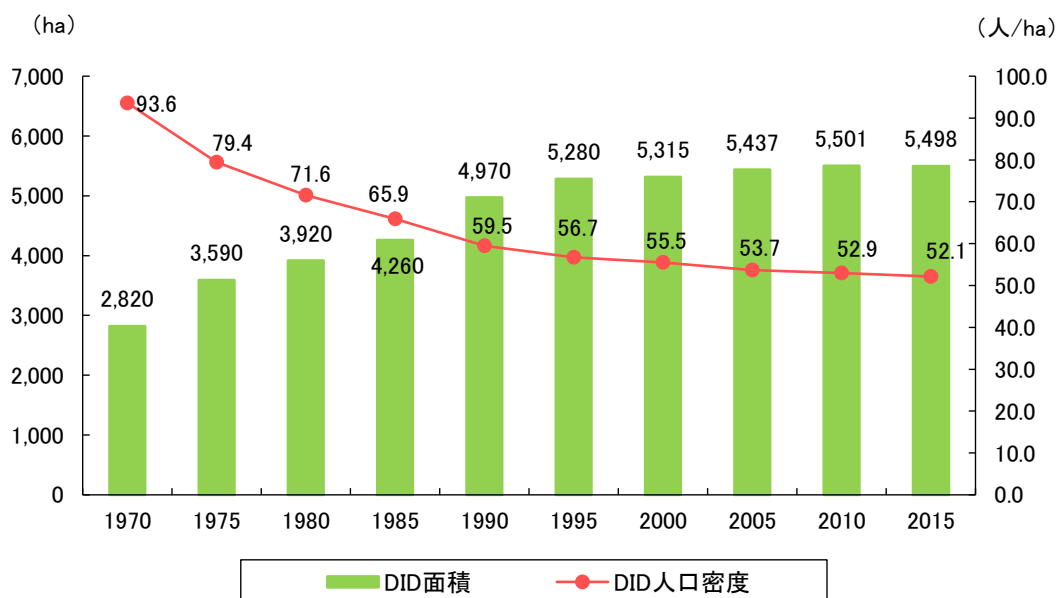


(ii) 市街地における人口密度の低下

- ・ 人口集中地区（DID）の面積は、近年は概ね横ばいとなっていますが、1970年（昭和45年）から2015年（平成27年）までの45年間で約2倍に拡大しています。
- ・ 人口集中地区の人口密度は低下傾向が続いており、1970年（昭和45年）の93.6人/haから、2015年（平成27年）には52.1人/haと55%程度になっています。



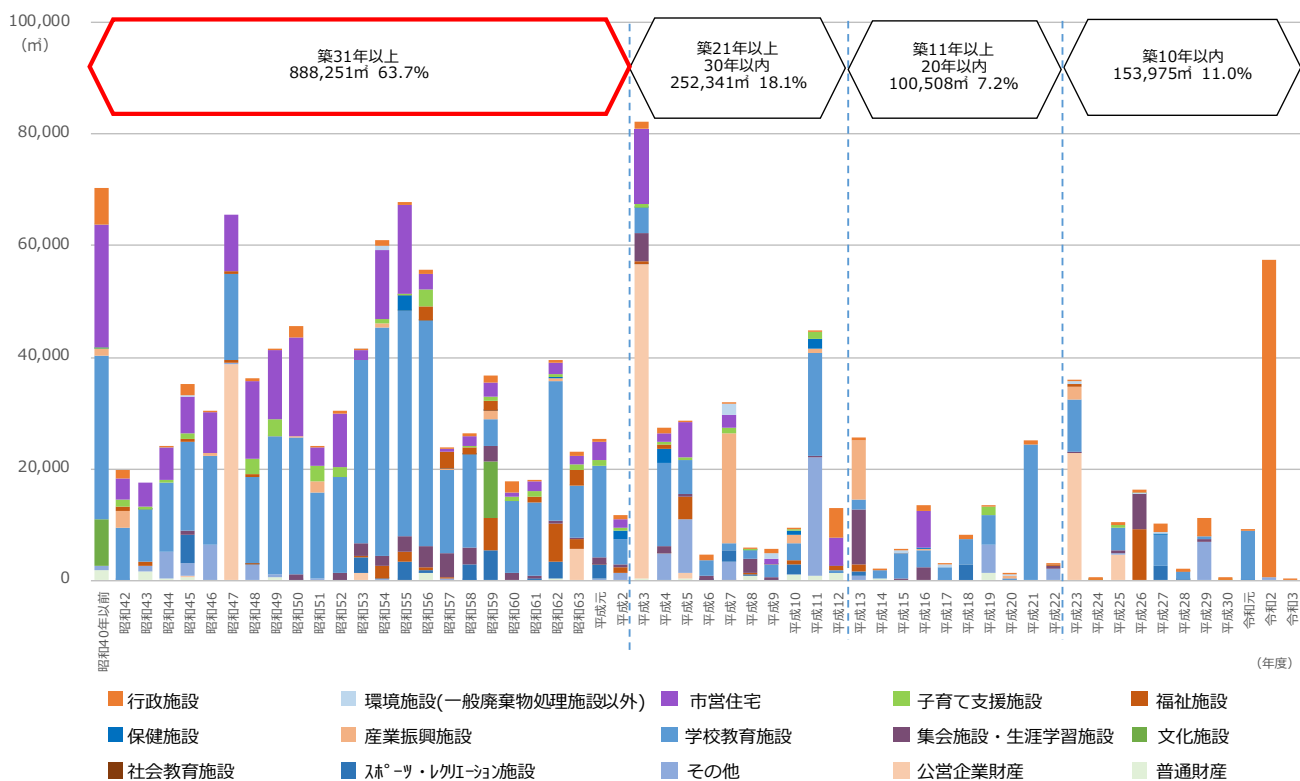
**【人口集中地区の面積と人口密度の推移】**



(iii) 公共施設などの維持の困難化

- ・市の歳出のうち扶助費や繰出金は、高齢化の進展などの影響により増加傾向にあります。一方で、道路や橋梁、学校などの社会資本の整備に要する普通建設事業費は、一定程度の額で推移しています。
- ・公共施設などの老朽化が進むなか、整備・維持に多額の費用が必要になります。加えて人口減少・少子高齢化の進行による税収の減少や社会保障に係る経費の増大などにより、公共施設などの整備にかかる財源の確保は厳しさを増すことが見込まれます。

【建築物系施設の年度別整備状況】



資料：岐阜市公共施設等総合管理計画（2022年（令和4年）3月）

現状からの問題点

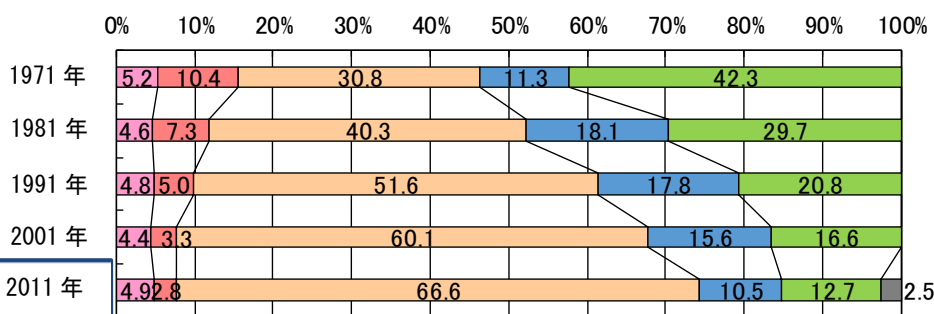
- 外延化した市街地において人口減少が続くことで、市街地の人口密度がさらに低下するおそれがあります。
- 公共施設などの老朽化の進行、厳しい財政状況、人口密度の低下などに伴う公共施設などの利用需要の変化といった背景から、現在の公共施設などのすべてを適切な状態で維持しながら公共サービスを提供していくことが難しい状況になると想定されます。



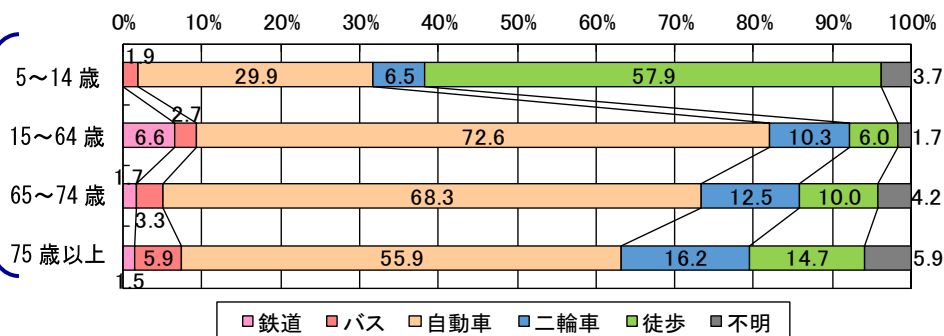
## ② 公共交通の維持の困難化

- ・ 1971年（昭和46年）からの約40年間で自動車分担率は2倍以上になっています。鉄道の分担率はほとんど変動していませんが、バスの分担率は減少傾向にあります。
- ・ 年齢別の自動車分担率は、年齢層が高くなるほど低下しますが、全体的に自動車への依存が高い状況です。
- ・ 路線バス利用者は横ばいで推移しています。

【岐阜市の代表交通手段別構成比】

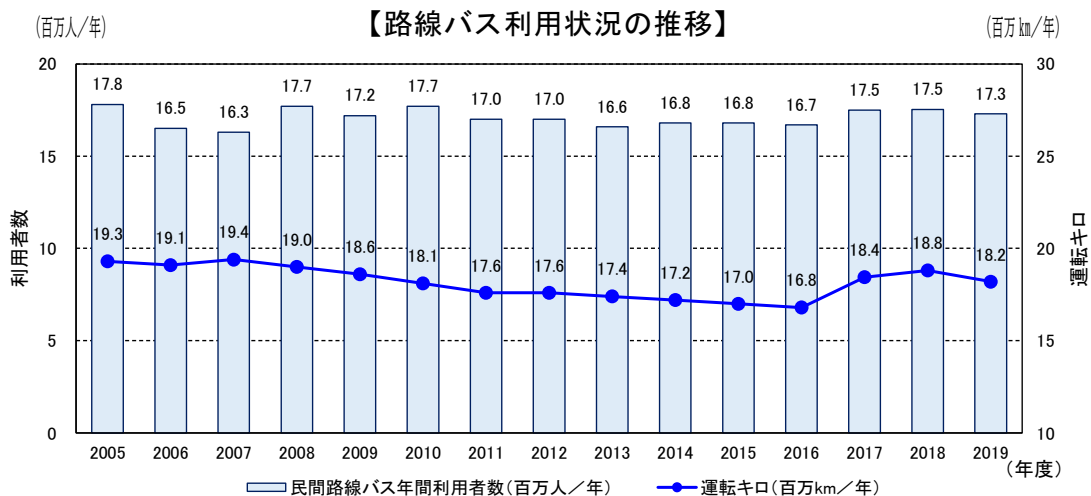


2011年の年齢階層別の構成比



資料：第5回中京都市圏パーソントリップ調査（2011年（平成23年）調査）

【路線バス利用状況の推移】



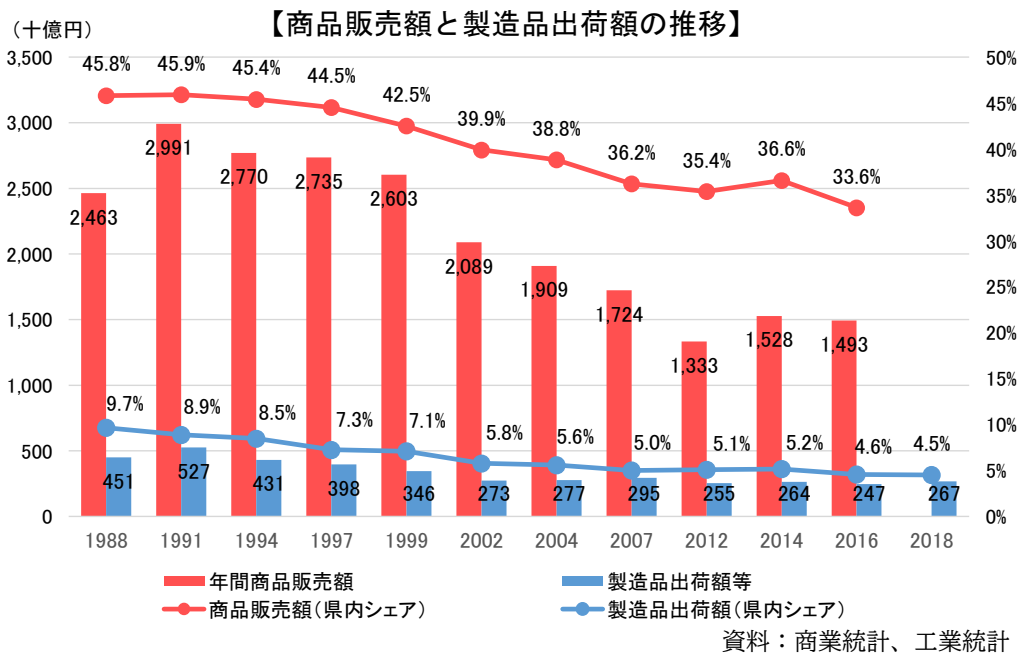
資料：岐阜市地域公共交通計画（2021年（令和3年）3月）

現状からの  
問題点

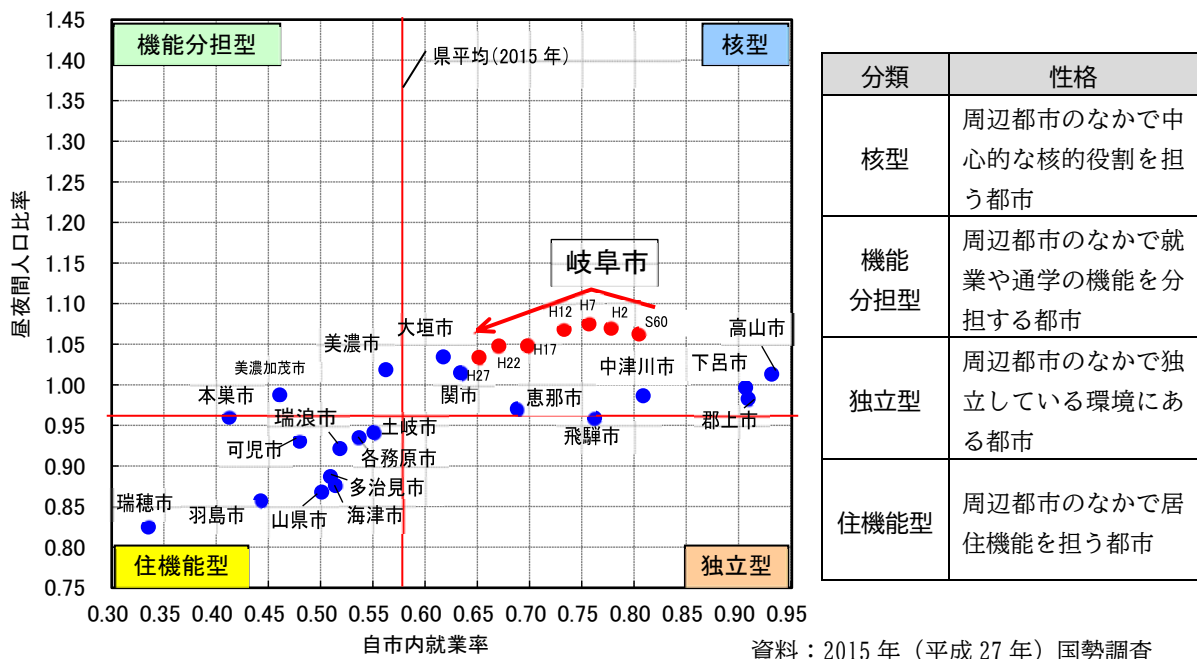
○自動車への依存の高さから公共交通が利用されなくなり、公共交通の維持が困難になるおそれがあります。これにより、高齢者をはじめとする市民の移動しやすさが確保できなくなる懸念があります。

### ③ 都市の活力低下

- ・ 1991年（平成3年）頃以降、商品販売額及び製造品出荷額は減少傾向で近年は横ばいで推移しています。年間商品販売額は2016年（平成28年）で約1兆4,930億円、製造品出荷額は2018年（平成30年）で約2,670億円であり、いずれも1991年時点の半分程度となっています。県内でのシェアは商品販売額が2016年で33.6%、製造品出荷額は2018年で4.5%であり、低下する傾向にあります。
- ・ 本市の自市内就業率と昼夜間人口比率は低下しており、都市の性格は人を引き付ける「核型」から、「住機能型」「機能分担型」へ移行しています。



### 【都市の性格分類】



現状からの  
問題点

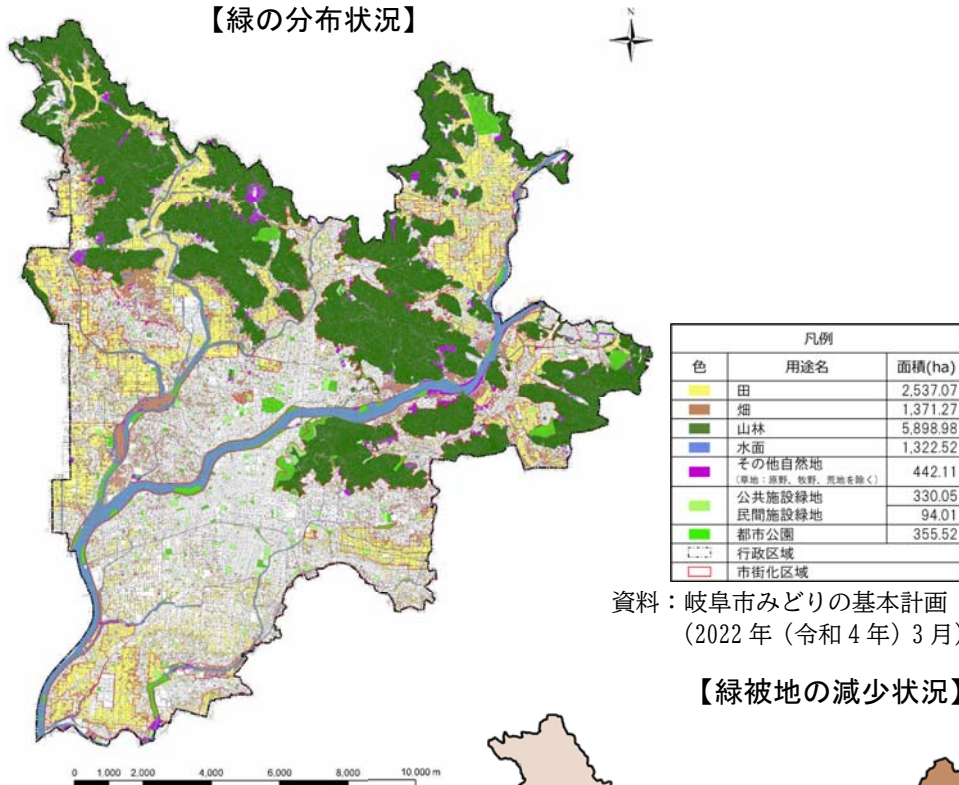
○商工業の停滞や、広域的な都市の中心性の低下により、都市の活力が低下することが懸念されます。

## ④ 都市の魅力低下

### (i) 緑被地面積の減少

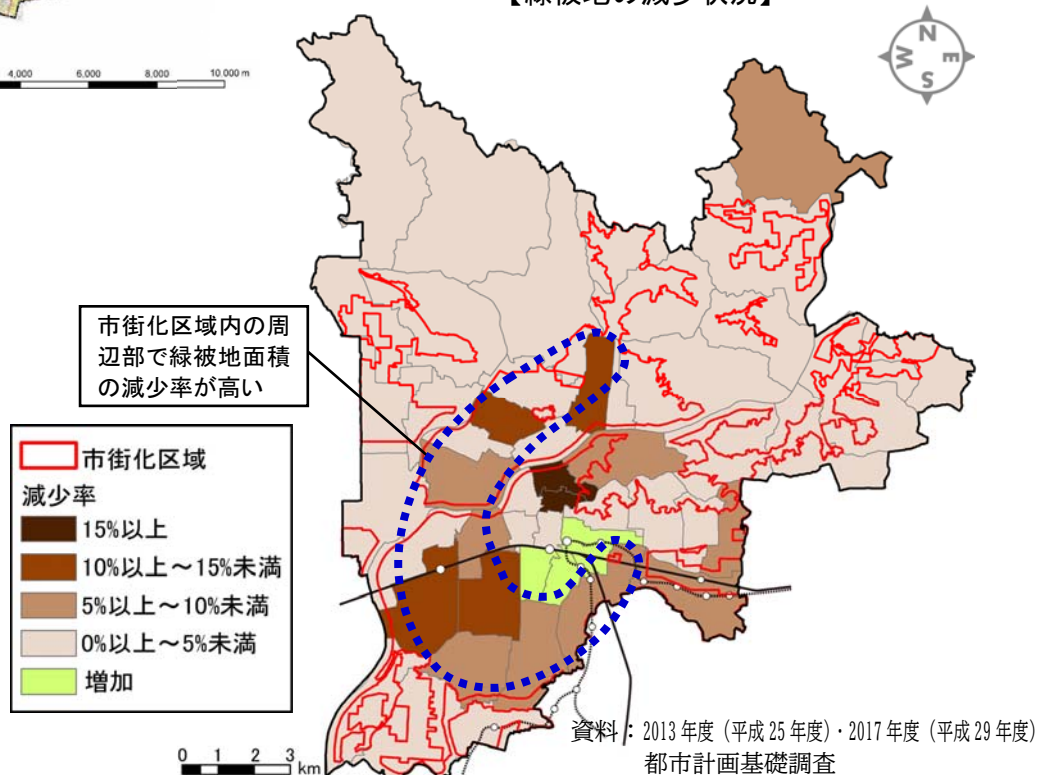
- ・本市においては、市のシンボルである清流長良川、金華山をはじめ、市域の北部から東部にかけて広く分布する森林や、長良川の支流として幾筋も流れる伊自良川などの河川が骨格的な緑を構成しています。市域の西部から南部の平坦地には水田を中心とする一団の農地が広がるほか、郊外部の市街地にも農地が分布しています。
- ・緑被地（樹林、草地、農地）の面積は、2013年度（平成25年度）から2017年度（平成29年度）の5年間で約480ha減少しており、特に市街化区域の周辺部で減少が大きくなっています。

【緑の分布状況】



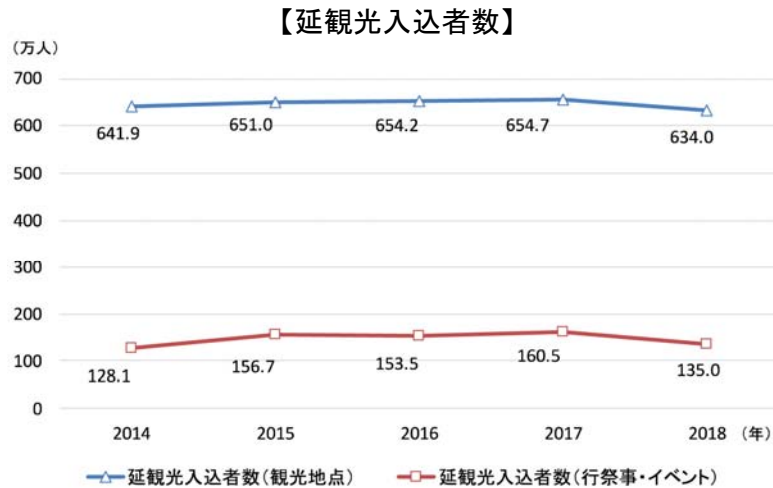
資料：岐阜市みどりの基本計画  
(2022年(令和4年)3月)

【緑被地の減少状況】



(ii) 伸び悩んでいる観光入込者数

- ・本市の観光入込者数は、近年において頭打ちとなっています。
- ・本市では、ぎふ長良川の鶺鴒や金華山、岐阜城などの自然、歴史・文化を背景とするものなどが観光資源となっています。



資料：岐阜市観光ビジョン（2020年（令和2年）3月）（原資料：岐阜市観光統計）

**【主な観光資源（※延観光入込者数の計測対象になっているもの）】**

観光地点	・伊奈波神社	・長良川温泉	・岐阜シティ・タワー43
	・岐阜メモリアルセンター （世界イベント村ぎふ）	・岐阜市畜産センター公園	43階展望室
行祭事・イベント	・岐阜公園	・鏡島弘法	・ぎふ長良川の鶺鴒
	・岐阜ファミリーパーク	・長良川うかいミュージアム （岐阜市長良川鶺鴒伝承館）	・プラザ掛洞
行祭事・イベント	・長良公園	・岐阜市科学館	・大龍寺
	・岐阜城	・岐阜市歴史博物館	・三田洞弘法
行祭事・イベント	・長良川花火大会	・道三まつり	・手力の火祭
	・ぎふ信長まつり	・ぎふ梅まつり	

資料：岐阜市観光ビジョン（2020年（令和2年）3月）

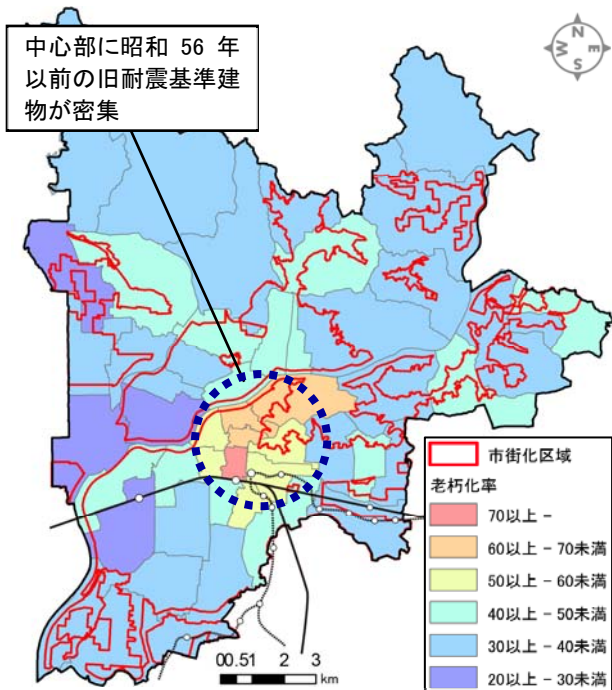
現状からの問題点

- 本市の観光資源でもある自然環境が損なわれることによる生活の快適性の低下や、都市の魅力の低下が懸念されます。
- 市街化区域内の周辺部で、緑被地面積の減少率が高くなっています。

### ⑤ 広範囲に及ぶ災害リスク

- ・ 市街化区域内には 1981 年（昭和 56 年）以前に建てられた旧耐震基準の建築物が多くみられ、特に中心部に密集しています。
- ・ 1000 年に一度程度発生し得る想定最大規模の洪水の場合、市街化区域の約 87%が浸水する可能性がある区域に含まれます。

【建築年別状況図】

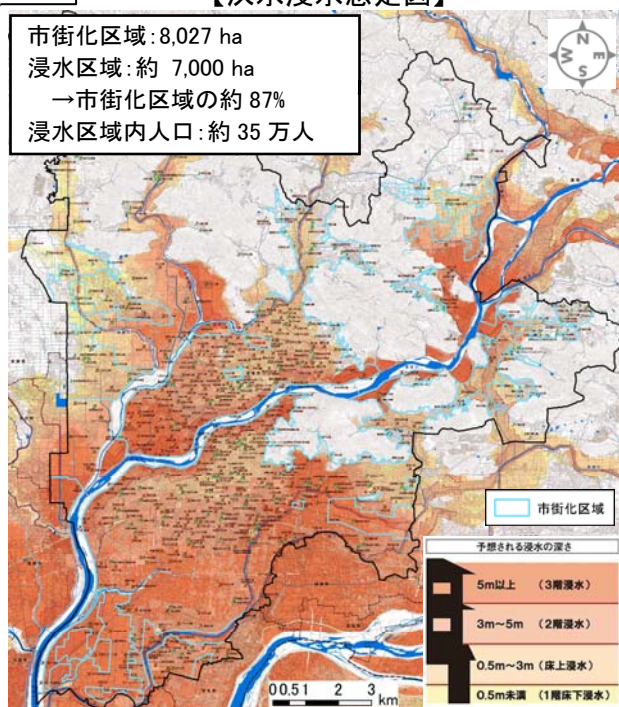


←老朽化率

1981 年（昭和 56 年）の建築基準法改正の前に旧耐震基準で建築された建築物数の、全建築物数に対する割合。

【洪水浸水想定図】

資料：2017 年度（平成 29 年度）都市計画基礎調査



洪水浸水想定区域図→

河川の想定最大規模の洪水による浸水想定区域を重ね合わせたもの。対象河川は、長良川、木曽川、伊自良川、鳥羽川、板屋川、境川、新荒田川、新境川、津保川、武儀川、揖斐川、糸貫川、天王川、根尾川。

資料：洪水ハザードマップ

現状からの問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○老朽化した建物が多いことにより、地震時に大きな被害が発生することが懸念されます。</li> <li>○本市の市街化区域は長良川などの流域に形成されているため、大部分に洪水による浸水の可能性があります。</li> </ul>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3) 都市づくりの課題

本市における現状からの問題点を踏まえ、今後の都市づくりの課題を以下のように整理します。

【現状からの問題点】	【都市づくりの課題】
<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少が続くことで、市街地の人口密度がさらに低下するおそれがあります。</li> <li>○公共施設などの老朽化の進行、厳しい財政状況、人口密度の低下などに伴う公共施設などの利用需要の変化といった背景から、現在の公共施設などのすべてを適切な状態で維持しながら公共サービスを提供していくことが難しい状況になると想定されます。</li> </ul>	<p><b>①集約型都市構造の推進</b>            居住や都市機能を集約してまとまりのある市街地とすることにより、商業・医療・福祉などの生活利便性と公共施設などの持続性を確保することが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自動車への依存の高さから公共交通が利用されなくなり、公共交通の維持が困難になるおそれがあります。これにより、高齢者をはじめとする市民の移動しやすさが確保できなくなる懸念があります。</li> </ul>	<p><b>②総合的な交通体系の構築</b>            公共交通や道路網からなる都市内外の交通ネットワークを形成し、移動のしやすさを確保することが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○商工業の停滞や、広域的な都市の中心性の低下により、都市の活力が低下することが懸念されます。</li> </ul>	<p><b>③中心市街地の活性化、産業振興</b>            新たな産業拠点の形成などによる産業の振興が必要です。            中心市街地では、拠点性の向上などによる交流人口の増加が必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○本市の観光資源でもある自然環境が損なわれることによる生活の快適性の低下や、都市の魅力の低下が懸念されます。</li> <li>○市街化区域内の周辺部で、緑被地面積の減少率が高くなっています。</li> </ul>	<p><b>④自然環境や歴史・文化などの保全と活用</b>            本市の観光資源でもある自然環境などの地域資源を保全・活用し、都市の魅力を維持・向上させることが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○老朽化した建物が多きことによる地震時の被害拡大が懸念されます。</li> <li>○長良川などの流域に形成されている本市の市街化区域は、大部分に洪水による浸水の可能性があります。</li> </ul>	<p><b>⑤災害に強い安全・安心の都市づくり</b>            大規模な自然災害への防災・減災対策の推進により安全で安心して暮らせる都市にすることが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○都市づくり・まちづくりにおいて、多様化・個別化・複雑化する市民ニーズに対応することが必要です。</li> </ul>	<p><b>⑥協働のまちづくりの推進</b>            岐阜市住民自治基本条例に基づき、市民などとの協働のまちづくりを推進することが必要です。</p>